

第74回国民体育大会（茨城）宮城県代表選手選考要項

- 1 大会期日 : 2019年10月4日(金)～10月8日(火)まで(5日間)
- 2 会場 : 茨城県ひたちなか市 笠松運動公園陸上競技場
- 3 種別(種目)及び参加人員
 - (1) 監督2名、選手29名(男子19名以内、女子19名以内)計31名以内で編成する。監督、選手の兼任は1名とし、その場合は参加選手を30名とすることができる。種別(種目)は本実施要項9に示す。
 - (2) 参加は、次の出場制限によるものとする。
 - 1) 1種目1名、同一人の出場は2種目までとする。ただし、リレーは除く。
 - 2) 宮城陸上競技協会主催の予選会に出場しなかった種目には出場できない。ただし、1種目の予選にのみ出場し、その種目の代表選手となった者は、予選に出場しなかった他の1種目にも出場できる。
 - 3) リレーチームの編成は、男女とも成年、少年A、少年Bから各1名、残りの1名は成年、少年A、少年Bのいずれかの種別とし、合計8名で申し込むこと。なお、選手変更については、日本陸上競技連盟競技規則によるものとする。
 - 4) リレーに出場する者は、予選会のどの種目であっても参加していれば出場できる。
 - 5) 成年男子10000m競歩の出場者は、5000m競歩の予選を経た者でもよい。成年女子5000m競歩及び少年男子共通5000m競歩の出場者は、3000m競歩の予選を経た者でもよい。
 - 6) 成年女子5000m競歩・走高跳・棒高跳には、少年女子Aからもエントリーできる。ただし、各都道府県からエントリーできるのは、成年女子又は少年女子A、いずれかの1名のみとする。
- 4 競技上の規則及び方法

2019年度日本陸上競技連盟競技規則によるもののほか、下記の要領で実施する。

 - (1) 少年男子共通110mHの、ハードルの高さ／ハードル間は、0.991m／9.14mとする。
 - (2) 少年男子B砲丸投の砲丸の重さは、5.00kgとする。
 - (3) 少年女子B100mHの、ハードルの高さ／ハードル間は、0.762m／8.50mとする。
 - (4) 少年女子共通砲丸投の砲丸の重さは4.00kgとする。
- 5 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準
 - (1) 監督・選手は、日本陸上競技連盟登録者であること。
 - (2) 参加資格・所属都道府県

総則5-(1)(2)に定めるもののほか、次による。

 - ア 日本国籍を有しない者については、学校教育法第1条に定める学校に在籍する生徒に限り、少年の種別に各都道府県、男女1名以内で参加することができる。
 - イ 監督は、公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者制度に基づく公認陸上競技コーチ、

公認陸上競技コーチ（以上、JAAFコーチ）又は公認陸上競技指導員、公認陸上競技上級指導員（以上、JAAFジュニアコーチ）の資格を有する者とする。

ウ ふるさと選手制度については、第74回国民体育大会実施要項総則5（別記1を含む）の規定による。

（＊別記1抜粋）

1) 成年種別の選手は、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。

ア 居住地を示す現住所

イ 勤務地

ウ ふるさと

2) 「ふるさと」とは、卒業中学校または卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

3) 「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。

なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。

4) 「ふるさと選手制度」の活用については、原則として、1回につき2年以上連続とし、利用できる回数は2回までとする。

（3）選手の年齢制限

ア 成年の部に参加する競技者は、2001年4月1日以前に生まれた者とする。

イ 少年Aの部に参加する競技者は2001年4月2日以降2003年4月1日までに生まれた者とする。

ウ 少年Bの部に参加する競技者は、2003年4月2日以降に生まれた者とする。

（ただし、中学生は3年生のみ参加できる。）

6 予選方法

本大会に準じて本要項3に定めた方法により、代表を選考する。2019年度の予選会、参考競技大会を以下に設定する。

予選会

（1）宮城県陸上競技選手権大会（以下、宮城県選手権）

（2）宮城県春季陸上競技選手権大会

（3）宮城県高等学校総合体育大会陸上競技大会

（4）全日本中学校通信陸上競技宮城県大会

（5）宮城県中学校総合体育大会陸上競技大会

（6）少年B国体予選会兼強化記録会

参考競技会

（1）日本陸上競技選手権大会（以下、日本選手権）

（2）各地域実業団陸上競技選手権大会

（3）各地区学生陸上競技選手権大会

（4）全国高等学校総合体育大会陸上競技大会（以下、インターハイ）

（5）東北高等学校陸上競技大会

（6）東北中学校陸上競技大会

（7）全日本中学校陸上競技選手権大会（以下、全中）

7 選考基準（優先順位）

(1) 種別ごとに選考基準を設け、優先順位に則り選考する。

種別	成年	少年A、少年共通	少年B
選考基準	1) 日本選手権において入賞する。(複数の場合は上位) 2) 有効期間内に標準記録を突破し、宮城県選手権において種目種別最上位となる。	1) インターハイにおいて入賞する。(複数の場合は上位) 2) 有効期間内に標準記録を突破し、宮城県選手権において種目種別最上位となる。	1) 有効期間内に標準記録を突破し、宮城県選手権または少年B予選会において種目種別最上位となる。(複数の場合は記録上位)
有効期間	2019年4月1日～ 宮城県選手権終了日まで	2019年4月1日～ インターハイ終了日まで	2019年4月1日～ 少年B予選会終了日まで

(2) リレーに出場する競技者について、リレーの特性を考慮し強化委員会が推薦する競技者を内定とする。

(3) 有効期間内における日本陸上競技連盟公認記録および予選会、参考競技会の結果により、総合的に判断し、強化委員会が推薦する競技者を内定とする。

※第74回国民体育大会実施要項総則別記4【トップアスリートの国民体育大会参加資格の特例措置】より、以下の条件のいずれかを満たす者は予選会が免除される。

- 1) 大会開催の直近に開催されたオリンピック競技大会に参加した者。
- 2) 2019年4月30日時点で、下記のいずれかに該当し、日本陸上競技連盟が本特例の対象として認めた者。
 - ア JOCアスリートプログラム強化指定選手
 - イ 国内ランキング上位10位以内の者
 - ウ 日本陸上競技連盟強化指定選手

8 選考方法

宮城県選手権終了後、強化委員会において第1次内定選手を選考し、インターハイ終了後に第2次内定、少年B国体予選会終了後、第3次内定選手を選考する。全ての選考が終了後、理事会において正式決定とする。

9 種別（種目）及び標準記録（別紙）

10 その他

- (1) 故障などのため、本大会で競技力が発揮できないような事態が生じた場合は代表を取り消す場合がある。
- (2) 決定選手は、原則として合宿・練習会に参加すること。

《問い合わせ先》

一般財団法人 宮城陸上競技協会
強化委員会 宮崎 利勝 (仙台大学)

TEL&FAX : 0224-55-1205

E-mail : ts-miyazaki@sendai-u.ac.jp